

巻頭言

北海道算数数学教育会
高等学校部会長 上野秀俊
(北海道札幌あすかぜ高等学校長)

第43回北海道高等学校数学コンテストが、道内17校、172名の参加により、令和7年(2025年)1月11日(土)を「標準実施日」として全道各地の高校を会場にして実施されました。協力いただきました各会場の先生方に感謝申し上げます。

また、当日に参加した生徒の皆さん、大変ご苦労様でした。

さて、数学コンテストは、実施要項の出題内容にあるように、数学に対する興味・関心を喚起し、想像力・直感力・思考力を高めることを目的にしています。また、高等学校において日常的に学習する内容と若干異なる出題をすることもあるが、高校1年終了程度の学力で解答可能な内容としています。これらの問題は、高校の先生が作成したオリジナル問題で、昨年の数学コンテストが終了したときから一年をかけて準備を進めてきたものです。

ところで、高校では、令和4年度の入学生から現在の学習指導要領が実施されています。すなわち、今年の高3年生からは、この学習指導要領による教育活動ということになり、学習指導要領の移行が終了したことになります。学習指導要領の改正からは、これまでの教育活動の理数教育について大きな課題をもっていることがうかがえます。そこには、理数を学ぶことの有用性の実感とあり、数学がただ単に答えを出すだけでなく、課題に取り組むときに日常生活や社会との関連を重視し、いわゆる探究的な学びが求められています。探究的な学びという視点でこの数学コンテストを考えてみると、最初は複雑な課題に見えるものが、あることがきっかけで複雑な課題を克服する光が見えてくるという経験をすることができるような出題がなされていると思います。このような経験を通じて数学への興味、関心を高め、数学が好きだと考えるようになってほしいと願っています。

結びになりますが、数学コンテストの実施に当たり、ご後援いただきました北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道新聞社、北海道高等学校長協会の皆様、また、協賛いただきました東京書籍株式会社、株式会社新興出版社啓林館、数研出版株式会社、現役予備校TANJ Iの皆様、また、クラウドファンディングにてご支援いただいた皆様に、ここに改めて感謝申し上げます。